



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

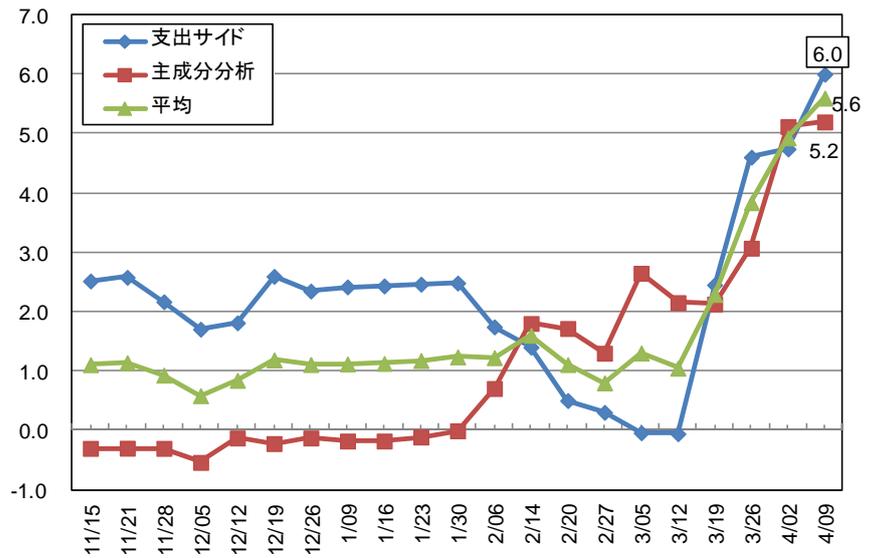
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.co.jp

日本経済(週次)予測(2012年4月9日)

ポイント

- ▶今週の予測によれば、1-3月期の実質 GDP 成長率を、内需は引き続き拡大し、純輸出も反転拡大するため前期比年率+6.0%と予測する。先週の予測(+4.7%)から上方修正された。
- ▶データ更新により、1-3月期の実質民間最終消費支出、実質民間住宅及び実質公的固定資本形成の予測値が先週から上方修正された。
- ▶2月の消費総合指数は3ヵ月ぶりの前月比マイナスとなったが、昨年10月から1月の値が下方修正された結果、1-2月期平均値は10-12月期平均値より0.8%上昇している。1-3月期の実質民間最終消費支出の予測値は前期比+0.7%と好調である。
- ▶1月の建設工事費デフレータは、住宅工事費、公共工事費ともに前年比低下した。この結果、1-3月期の実質民間住宅、実質公的固定資本形成の予測値は先週よりともに上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q1 (%、前期比年率換算)



<予測は4週連続で上方修正：期待できる1-3月期の高成長>

先週は(4/2-4/6)は3月の新車販売台数、食料安定供給、2月の毎月勤労統計、消費総合指数、景気動向指数、1月の建設工事費デフレータが更新された。また日銀3月短観の調査結果が発表された。2月の現金給与総額は前年同月比0.7%増加した。9ヵ月ぶりのプラス。総実労働時間も同3.0%増加し、2ヵ月ぶりのプラスを記録した。

2月の消費総合指数は前月比0.2%低下し、3ヵ月ぶりのマイナスとなった。しかし、2011年10月から1月の値が下方修正された結果、1-2月期平均値は10-12月期平均値より0.8%上昇している。このため1-3月期の実質民間最終消費支出の予測値は前期比+0.7%と好調である。

3月の新車販売台数は前年同月比76.3%増加し、6ヵ月連続の拡大となった。季節調整値は前月比-0.5%と2ヵ月連続のマイナスとなったが、1-3月期は前期比+24.3%と大幅に増加した。

1月の建設工事費デフレータは、住宅工事費、公共工事費ともに前年同月比低下した。この結果、1-3月期の実質民間住宅、実質公的固定資本形成の予測値は先週より上方修正された。

新たに発表された月次指標を更新した今週(4/9)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質 GDP 成長率(年率換算)を、内需は引き続き拡大し、純輸出も反転拡大するため前期比年率+6.0%と予測する。先週の予測(+4.7%)から上方修正された。4週連続で予測は上方修正されており、1-3月期日本経済はかなりの高成長が期待できる。この結果、2011年度の実質 GDP 成長率は0.0%(前回予測：-0.1%)となろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550